ばかりの群衆と明るさとに、氣を呑まれたのか、或は呑んだのか、兎に角マデレン近くの料理屋に休んで、お寺の鐘の聲を聽きながら正月料理を食うて見ることに相談が出來た。酒は佳し飾りつきの小鳥なんぞ出て大に美味かつたさうだが、勘定の段になつて發議者たるXが一人前百何十フランづゝかを料理丈けに拂つたのを見た時には、拂つて貰つても好いやうなものだが、少し氣の毒でもあつたとTが話した。何も知らぬ二人の入つたこの料理屋は、この邊でも高屋で通つて居る家ださうだから、案内したTが格別惡いのでもなく、少し高いとも何とも言はずに拂つたXが目出度いのでもない、諸國から入り込んだ大小の金持が除夜や正月の氣分を味ふのには、蓋し安價な犧牲に過ぎなからう。正月料理は兎も角もとして、旅に出て此の地にとゞまる日本の人で、それ〴〵誘ひ合せてかうしたそゞろ歩きを試みないものは少からう。一つは異國情調を味う爲に、一つは本國の除夜氣分にも刺激せられて。

新年祝賀の爲オーシュ通りの大使の住館に午前十時に集合されたしといふ通知が豫てから來て居る。外を見ると道は濡れては居るが降つては居ない、大して遠い處でもなし、『行くかな』といふSの誘ひに應じて出かける。

知つた同士の佛人の間には『新年は』の挨拶は換はされるが、日本の樣に目出度さうにはない、軒並旗が出て朝風にパタついて清新な感じを與へるやうなことは勿論無い。日本では犬でも正月らしい顏をして居るものだがと、不足さうにSがいふ。大使館に着くと先着の同胞諸君が既に一階にも二階にも一杯だ。日本の勳章をつるした佛蘭西人も四五人來て居る。平生は滅多にお目にかゝらない同胞の女性も十數人居並ぶ。簡單なのや糞鄭寧なのや挨拶が換はされて、お目出たうの聲が四方から聞えると、流石正月のやうな氣分がせぬでもない。

大使の挨拶がすむと、一人々々御眞影の前に出て最敬禮をする。軍人の外は大概モーニングを着込んで居るが、